令和３年度秋田県放課後児童支援員認定資格研修　研修レポート抜粋

（誤字脱字等については校正しているため、原文と異なる場合があります）

県北会場

科目　⑮放課後児童支援員の仕事内容

◆　子どもの出欠席に対して敏感になり、なぜ休みなのか勝手に判断しないことを常に念頭に置いて対応していきたいと思う。要望及びクレーム対応について、きちんと対処方法を理解して、ただ悩むだけでなくそのクレームを次に活かして同じことを繰り返さないように職員同士で確認しながら連携していきたい。思春期に入りかけている高学年の対応は難しいが、一人ひとりの気持ちを尊重しながら、気持ちに寄り添って援助していきたい。

◆　仕事内容を詳しく教えていただき、普段の仕事が子どもたちにとって、とても大切なことを学びました。また、求められる資質や職場倫理、苦情への対応等、働く上で必要な知識を講義いただきました。実体験も多数お話ししていただき、対応や掛ける言葉を学べました。生活習慣の習得には根気強く声掛けすることが必要とのこと。現在マスクや手洗い等少しずつ習慣付いてきましたが、まだまだ安心できないご時世なので、今後も声掛けを続けていきたいです。

◆　放課後児童支援員の仕事内容を詳しく学び、役割や求められる資質の再確認ができました。しっかり対応できていないところもあり、今後も研修等を通じて必要な知識や技能の習得に努めて仕事に取り組んでいきたいと思います。また、支援員が「良い言葉」を使うことにより「子どもの良い人生」が展開されることを学び、子どもたちが明るく前向きに過ごせるよう「プラスの言葉」の声掛けを意識していきたいと思います。

◆　保護者との信頼関係の構築は、子ども以上に難しさを感じる。挨拶程度で終わってしまう中で、こちらを避けるような態度だったり、距離を感じて話しかけづらかったり、一人ひとりの保護者に対する接し方に戸惑うときもある。それでも少し笑顔が見られたり、少し声のトーンが上がって聞こえたりするだけでこちらも嬉しくなる。保護者が日々どのような様子でいても私たちは誠実に対応し、お子さんを安心して預けてもらえるような場づくりをしていきたいと思う。

◆　仕事内容の中で「基本的な生活習慣が取得できるようにする」という項目にハッとしました。低学年の子どものお迎え時にジャンパーを着せたり、ランドセルを背負わせたりしていたことに気付き、支援員は声掛けをして、支援員がやらずに子どもにやらせなければならなかったと反省しました。これからは「上から目線になっていないか」、「子どもとの約束は守っているか」、「何でも話せる信頼関係ができているか」を意識して努めていきたいです。